

人権研修プログラム手引書



ナビゲーションⅢ



広島県



はじめに

広島県では、人権問題職場研修担当者のための研修手引書として「気づきナビゲーション(平成16年度)」「気づきナビゲーションⅡ(平成17年度)」を発行し、皆さんに提供して参りました。

研修担当者は人権研修を計画するとき、人権の大切さを“伝えたい”という想いは持っていても、その想いを受講者に伝えるためにどんなプログラムにすればよいのか悩むことがあると思います。

最近では参加体験型の研修プログラムが盛んに取り入れられ、受講者はいろいろなアクティビティ(※)を体験することで、人権の問題を身近な“自分のこと”として学び、理解を深めるよう工夫されてきています。

この手引書は参加体験型の研修プログラムで用いられるアクティビティを紹介したものです。2部構成とし、第1部では研修の導入に使えるアクティビティを、第2部では具体的に人権について学ぶアクティビティを紹介しています。

研修を行う際の心構えや研修自体の企画・立案の方法は、これまで発行した「気づきナビゲーション」に載せていますので、今回の手引書は研修担当者となった方が、すぐにでも活用できるアクティビティを掲載した実践編としました。

研修担当の皆さんが「気づきナビゲーション」「気づきナビゲーションⅡ」と一緒にこの手引書を活用して研修を行っていただくことにより、一人でも多くの方が人権の問題と自らのかわりに気づき、日常生活において人権への配慮が自然に態度や行動に現れてくるような人権感覚を持つことができるよう願っています。

※「アクティビティ」とは研修プログラムのこと。研修の中で、受講者がワークシートを記入し、それを使って受講者間で意見交換したり、身振り手振りなど体を動かしながら受講の緊張を和らげたり集中力を高めたりするために用いるもので、参加体験型のプログラム研修を構成する。

目 次

第 1 部

導入部分アクティビティ

自己紹介インタビュー 5

人の鏡 8

フォトランゲージでお話づくり 9

第 2 部

人権を学ぶアクティビティ

関係性の中に生きるわたし 13

ニュースにおける人権 23

その「ちがい」は何のため? 25

質問バスケット 39

同和問題解決のために 43



アクティビティの中のこのマークは、ファシリテーターが進行していく部分です。

ファシリテーターとは、集会・会議などで、テーマ・議題に沿って発言内容を整理し、発言者が偏らないよう、順調に進行するように口添えする役。議長と違い、決定権を持たない。

第 1 部

導入部分アクティビティ

自己紹介インタビュー

人の鏡

フォトランゲージでお話づくり

～第1部で紹介するアクティビティは、いずれも研修のウォーミングアップに利用できるものです。初対面同士の人々が持つ堅苦しさやよそよそしさを壊して親しくなるためのもので、これによって穏やかな雰囲気や安心感を作りだします。

導入部分のアクティビティには、研修の本体につながるようなアクティビティを選ぶことが大切です。

自己紹介インタビュー

ウォーミングアップとして取り入れます。

自己紹介をするのに何を話すか考えてもらいます。2人組になり、考えたことを基に自己紹介します。

時間は1～2分程度、傾聴の姿勢で行います。

次に2人組を変えて、今度は相手を知るために何を聞くかインタビューの内容を考えてもらいます。お互いに2～3分ずつインタビューをします。2つの自己紹介をして、どう感じたかを振り返ります。

傾聴のポイント

- (1) 心を向ける:「自分の番がきたら何を話そう」など、ほかの事を考えずに話し手に集中します。
- (2) 体全体で共感をあらわしながら、姿勢や相槌など、全身で聴く姿勢をあらわします。
- (3) 質問しない:質問されると、それに答えなくてはならなくなります。ここでの傾聴は、話し手が好きなように話せることを大切にしたいので、質問はなしです。

※このポイントは、このアクティビティでのもので、「傾聴」一般のものではありません。

※質問はしないが、黙って聴くということではありません。「へえ」「なるほど」「それで」など、ふつうの応答や話を促す言葉はかまいません。



ファシリテーターの問いかけ

「話す側と質問する側とどちらのほうがやりやすかったですか。」

「それぞれで話す/質問する項目はどのようにして決めましたか。」

「自分で話すときと、相手から質問されたときで、共通していた項目がありましたか。」

「相手によって選ぶ項目は違っていたでしょうか。」

「項目の選び方についての特徴がありましたか。その特徴について話してみましよう。」

準備物

- ホワイトボード
- マーカー

プログラムの流れ 30分

ステップ1	自己紹介をするのに、何を話すか考えてもらう	5分
	2人組になって、考えた項目で自己紹介をする	5分
ステップ2	相手を知るために、何を聞くか考えてもらう	5分
	2人組を変えて、お互いインタビューする	5分
ファシリテーターの問いかけ		10分

ステップ 1

START

自己紹介しよう

10分

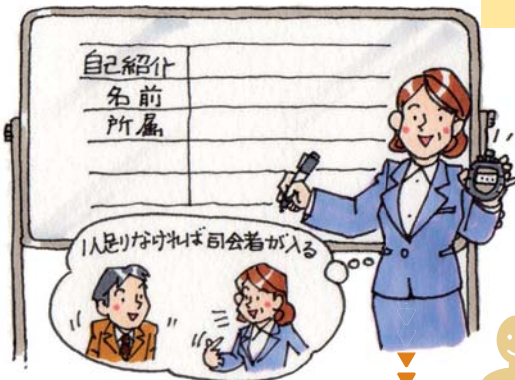


皆さんは初めて人と出会ったとき、自分のことをどのように伝えますか。自己紹介をするときに〈相手に伝えたい自分自身〉とは何でしょう。まず、自己紹介で何を話すか考えてください。今から2人組のペアになっていただいて、自己紹介をしていただきます。

ワンポイント

参加者の関係があまりない場合は隣どうし、または近くの人で2人組をつくる。参加者どうし関係がある場合はできるだけ話をしたことがない人とペアを組んでもらう。

2人組になってもらう。
全体を見渡しなが、ペアが成立しているかどうか気を配る。



こんな場合

参加者が奇数の場合は3人組を作るか、主催者に入ってもらい偶数にする。3人組を作った場合は、ペアで1分ずつ自己紹介をした後、3回目の1分をとる。3回目の1分について、ペアはフリーに話をしておいてもらってもよい。



時間は1人1分程度にします。こちらで1分間計ります。自己紹介の項目は名前や所属などですが、それ以外に自由に話していただいて結構です。

●項目を簡単に黒板(ホワイトボード)に板書する。



板書の例

自己紹介	
・名前	
・所属	



この1分間は話す人の1分です。聴く人はまずは傾聴をお願いします。傾聴のポイントは次の3つです。
※5ページ線囲みの部分を読む。

ステップ 2

10分経過

インタビューしよう

10分



こんな場合

ほとんど反応がなく、人権学習の枠組みで緊張した雰囲気もあり、「何を言ったらいいんですか」という発言が出ることもある。
ご自分が自己紹介で伝えていることを思い出して考えてもらえよ。



次に相手を知るために何を聞くか項目を考えてもらいます。

皆さんが相手を知るために聞きたいこと（インタビューすること）は何ですか。初めての人に出会ったとき、こちらから聞きたいことです。

先ほどの板書を使って書き足す

自己紹介	相手を知るために聞くこと
・名前	・名前
・所属	

先ほどの2人組と違った相手を探して、新しい2人組を作ってください。

先ほどと違う人と2人組になっとう。



今度は、板書した項目でも結構ですので、相手にインタビューしていただきます。先ほどの自己紹介とは違って、相手が聞いてきたインタビューの項目に答えるというものです。

こんな場合

「何を聞いてもいいのですか」という参加者からの質問に対しては、板書で出してもらった項目でインタビューしても良いし、新たに聞きたい項目でも良いということを伝える。パスもOK、必ず答えなくても良い、と伝えてもよい。



いま、自己紹介で話す側と質問される側とどちらがやりやすかったですか。「話す方がやりやすい…」 「質問で答えるほうがやりやすかった…」と、それぞれ感じ方が違うのではないのでしょうか。それぞれの違いがありますが、では、話す項目と質問する項目はどのように決めましたか。自分で話すときと、質問されるときに共通した項目はありましたか。私たちは、どのようにしてこの項目を決めているのでしょうか。

2つの方法で自分の紹介をしてどう感じたか、先ほどの2人組で話し合ってください。

●話し合いの様子を見て区切り、次に進む。



自己紹介で自分があたり前に話したり聞いていたことも、人によってはそうではない場合もあったのではないのでしょうか。それぞれが無意識に判断していることや、相手に対して持つ関心、興味の違いについて深めていきましょう。

導入部分アクティビティ 2

人の鏡

知らない人どうしても、知っている人どうしても、楽しくからだを動かしながら、相手との親近感を増すことができます。参加者が大人で互いに面識のない場合は、アイス・ブレイカーとしてよりも、途中の息抜きとして使う方が適しているかもしれません。

●アイス・ブレイカー

●息抜き

時間 ●5～10分

人数 ●5人以上、何人でもよい

会場 ●広いスペース

プログラムの流れ

- ① ペアになり、互いに向き合って立つ
- ② 1人がゆっくりと自由にからだを思い思いに動かす
- ③ もう1人は鏡となって、相手の動きをまねして動く
- ④ ファシリテーターは、1分たったら交代の合図を送る
- ⑤ 役割を変えて、同じことをする



フォトランゲージで お話づくり

絵とA4白紙を各参加者に配り、その絵(現場)を見て、そこから状況や状態を想像し、お話を作ってA4白紙に書いてもらいます。

各グループ(4~5人)に分かれて、各自が作った話を共有します(P5「傾聴のポイント」参照)。

各グループでそれぞれ話したり聞いたりして、思ったことや気づいたことについて全体で話しあいます。



ファシリテーターの問いかけ

- 「どのようなお話になりましたか。」
- 「それぞれのお話を聞いて、いかがでしたか。」
- 「お話を聞いて気がついたことがありましたか。」



準備物

- 絵
- A4程度の白紙

プログラムの流れ 30分

絵を見て、用紙にお話を作ってもらう	10分
グループで話したり、お互いのお話を聞く	10分
ファシリテーターのコメント	10分

ステップ 1

START

絵を見て、用紙にお話を作ってもらう

10分

- 参加者に絵と白紙(A4程度)を配布する。



人それぞれが違うということを、絵を使って考えてみましょう。その絵を見て、それがどのような状況かを想像し、それを説明するお話を作ります。それぞれが、お話を作ります。

作ったお話は白紙にメモしてください。時間は3分程度計ります。

そろそろできましたか。まだ時間が必要な方はいますか。

こんな場合

書いていない人がいた場合、少し近づいて、「どうですか?」「難しいですか?」となぜ書いていないのか尋ねてみる。

その人が他の人の邪魔をしない限り、書くことだけを強制しない。



ステップ 2

10分経過

グループで話したり,お互いの話を聞く

10分



できましたでしょうか。
では,4人のグループになってください。

ポイント

人数が合わなければ,5,6人組でもかまわない。

作ったお話をお互いに聴き合ひましょう。



どのようなお話になりましたか。2~3人に紹介してもらいます。

それぞれのお話を聞いて,いかがでしたか。

こんな場合

それぞれの話が紹介される中で,参加者の中で違いが明らかになる場合もあるが,この活動は正しいか,間違っているかを判断するものではないことを伝える。いろいろな見方・考え方で,多様な話が出ることを尊重する。

例えば,バスの中の様子を描いた絵を見て,マナーについて攻撃的で批判的な話が出ることもある。「あなたは,そのようなお話になったのですね。」とあくまでもお話づくりという視点で受け止める。

●話が一区切りついたら,次に進む。

ステップ 3

20分経過

ファシリテーターのコメント

10分



一つの同じ絵を見ていろいろなお話が出ましたが,同じ部分があったり,全く違ったお話もありました。

それぞれのお話を評価したり正しいか間違っているかを見つけ出すのではなく,この同じ部分や違うことについて,私たちのものの見方・考え方はいったい何から影響を受けているのか考えてみましょう。



第2部

人権を学ぶアクティビティ

関係性の中に生きるわたし

ニュースにおける人権

その「ちがい」は何のため?

質問バスケット

同和問題解決のために

～「ニュースにおける人権」は子どもたちを対象としたものですが、受講者の年齢を限定せずに活用できます。

関係性の中に生きるわたし

ねらい

- 自分のアイデンティティを他者や社会との関わりの中でとらえ、その多面性に気づく。
- アイデンティティとは、その人に固有の大切なものであるが、社会の中では必ずしも全てが同じように尊重されていないことを知り、どんなアイデンティティも尊重されるにはどうしたらよいか考える。

キーワード

アイデンティティ

多様性

関係性

尊重

自己肯定

準備物

- 歌詞カード
- アイデンティティカード (グループに1セット)
- マーカー(1人1本)
- ふせん紙(1人10枚程度)
- もぞう紙 (1/2サイズ,グループに1枚)
- A4白紙(グループに3枚)
- ホワイトボードと専用マーカー

プログラムの流れ 90分

- 5分 ① 趣旨とルールの説明 ~ねらいの説明
- 20分 ② ペアで自己紹介・他己紹介 ~自己紹介を通してアクティビティへと導入
- 25分 ③ 関係性の中に生きるわたし ~自分のアイデンティティを他者や社会との関わりから振り返る。
- 25分 ④ このアイデンティティは言いやすい? ~様々なアイデンティティの要素が社会の中でどう扱われているか整理する。
- 15分 ⑤ みんなのアイデンティティが大切にされるために ~よりよい社会をつくるために何ができるかを考える。

ねらいの説明

START

① 趣旨とルールの説明

5分

ポイント・会場設営の例

会場の形は、アクティビティによって変えやすいよう、机なし、イスのみで設営しておく。机は後で使うときに出しやすいよう、横に置いておくとよい。



今日はワークショップ形式で学んでいきます。ワークショップというのは、講師が答えを持っているのではなく、参加者の皆さんがやり取りをしながら、考えを深めていく学び方です。

人権というと、難しく思われる方も多いかもしれませんが、できるだけ身近なところから考えていきたいと思っています。正解があるわけではありません。皆さんには、普段の言葉で自分の思うことをおしゃべりしていただければと思います。

そのために3つ、お願いがあります。

この場では「協力・尊重・守秘」をルール(約束)としたいのです。

- 「協力」「尊重」「守秘」を板書する。





「協力」とは、お互いに学ぶために協力しましょう、ということ。
「尊重」とは、それぞれのあり方や意見・思いを尊重しましょう、ということ。

「守秘」とは、ここで出された個人の経験や考えはこの場にとどめる（外には出さない）、ということです。

今日は、自分自身のアイデンティティについて振り返ります。アイデンティティというとその人の内面のことと思われる方もありますが、他者や社会との関係性から考えてみたいと思います。

自己紹介を通して
アクティビティへと導入

5分経過

2 ペアで自己紹介・他己紹介

20分



1 2人組を作る（席替え）

3分



はじめに、ペアになって自己紹介をします。近くの方と2人組を作ってください。お知り合いの方と近くに座っている場合は、少し移動して、あまり知らない方と組んだ方が照れくさくないかもしれません。

ポイント

時間に余裕がある場合は、円形などに席替えすると良い。

2 個人で自己紹介の項目・内容を考える

2分



自己紹介の前に、まずは、何を話そうか、考える時間をとります。あわせて、相手にどんなことを聞いてみたいかを考えてみましょう。1分ほど時間をとります。

ポイント

参加者が奇数の場合は3人組を1組作り、時間を少し長めにとる。

10分経過

3 自己紹介をする

3分



では、自己紹介を始めます。3分ほどとるので、お互い自己紹介をしてください。先ほど考えたことに沿って、質問をしていただいても構いません。1分半たったら声をかけるので、2人ともが話せるように、交代しながら知り合ってください。



4 4人グループを作り他己紹介をする

7分



お互い知り合うことができたでしょうか。

今度は今のペアが2つ一緒になって、4人のグループを作ってください。そのグループの中で「他己紹介」をしたいと思います。

他己紹介とは、自分で自分のことを紹介するのではなく、先ほどのペアの方に自分のことを紹介してもらうやり方です。紹介してもらっている間は、「さっきの自己紹介で、私のことをこんな風に受け止められたんだな」と思いながら、黙って聞いておいてください。

1人30秒ずつで交代します。全員が終わったら、補足・修正や、感想を話し合ってください。では、始めましょう。

●30秒ごとに声をかける。

ポイント

ペアが奇数組ある場合は、3組6人のグループを作る。



自分自身でイメージしている自分と、他己紹介で話された自分は、良く一致していたでしょうか。それともずいぶん違っていたでしょうか。

20分経過

5 グループで話した内容を全体で共有する

5分



自己紹介・他己紹介をやってみて、どうだったでしょうか。グループで話したことを共有してください。

●感想を数人から発表してもらおう。

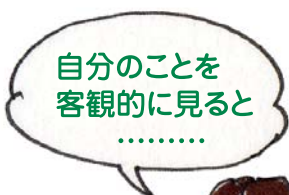
ポイント

何人かに発表してもらい、適宜コメントする。発表は何人かでよい。



自分で話す自分のことと、他の人が自分のことを紹介しているのと、ずいぶん違うと感じられた方もあるかもしれません。これは、どちらが「正しい」というのではなく、相手には、あなたがそのように見えた、感じられた、ということであり、それもあなたの一部なのです。

「わたし」というのは、自分の内側で確かめるだけでなく、他者との関わりの中にあられてくるものもあるのではないのでしょうか。

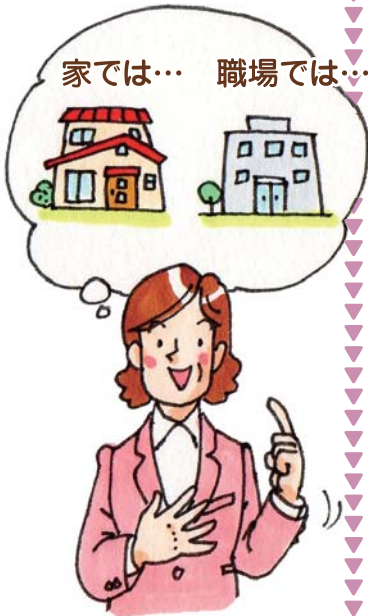


25分

25分経過

3 関係性の中に生きるわたし

自分のアイデンティティを他者や社会との関わりから振り返る。



ポイント

先ほどの4人グループで続ける。

1 自分の肩書・立場を書き出す

9分



「わたし」は関係性の中でさまざまな側面を持っています。例えば私は今、皆さんの前では講師ですが、家に帰れば〇〇であり、実家に帰れば〇〇、職場に行けば〇〇という肩書があります。(※A)

このように、その場の関係性によって、1人の人にもさまざまな側面があります。では、自分の場合にはどのような側面や肩書き、立場があるか考えてみましょう。ふせん紙を配るので、思いついたものをできるだけたくさん書き出してみてください。(※B)

ここは個人作業ですが、後でグループで出し合うので、書くのは共有してもいいと思うものだけでかまいません。

- グループごとに机を出してもらい、ふせん紙・マーカーを配布する。



ポイント

- (※A)ファシリテーターの言葉〇〇は、自分にあてはまるものを入れる。書き出すときは、1枚に1項目、マーカーなど見やすい筆記用具で書く。
- さまざまな側面をもつ紹介として、P20にある歌詞カードを提示し、紹介すると分かりやすい。
- 歌を知っていれば歌ってもよい。
- (※B)書き出すときは、1枚に1項目、マーカーなど見やすい筆記用具で書く。
- このプログラムを実施する前に、ファシリテーター自身もやってみることを。

34分経過

2 グループで共有と分類をする

5分



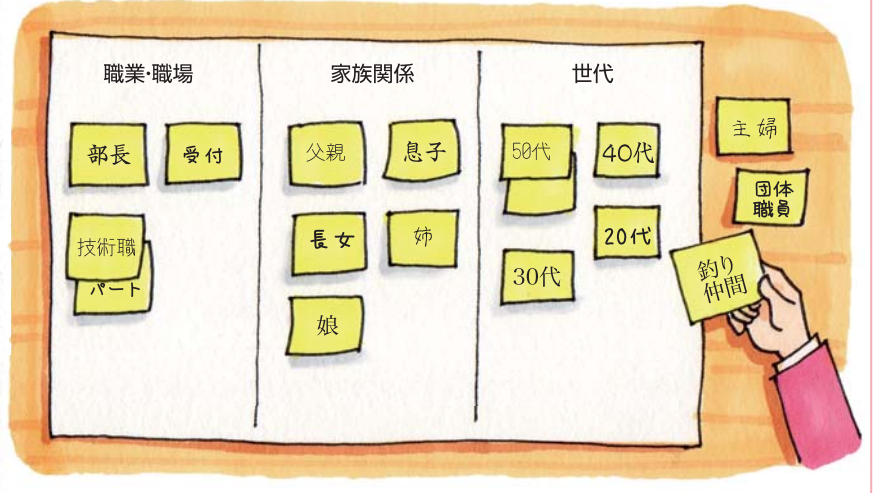
書き出したものをグループで共有しながら分類してみましょう。
分類したらまとまりごとに名前(カテゴリー)をつけてみてください。

●ふせん紙を貼るもぞう紙をグループに配布する。



ポイント

カテゴリーの例としては、職業、家族関係、性別、世代など



39分経過

3 自分の中やグループで振り返りをする

6分



共有できたでしょうか。分類はきっちりできていなくてもかまいません。他の人が書かれたものを見て、自分は書かなかったけれど「私の場合はどうなるのかな」と考えた側面はあったでしょうか。

いろいろな側面をカテゴリーとして分類していただいたわけですが、ここで少し振り返ってみましょう。

自分自身の中で、日ごろ意識することが多い/少ない(または強く意識している/あまり意識していない)側面(カテゴリー)はどれでしょうか。

他者に対して、表現しやすい/しにくいカテゴリーはどれでしょうか。

共有するという前提で書いていただいたので、自分の中では意識しているけれど、人に気軽に言うのはためらう、というようなものもあるかもしれません。

少し、自分の中で振り返る時間をとります。先ほどのグループ作業や、今の自分の中で振り返ったことで、気付いたことや感じたことを、グループで分かち合いましょう。



45分経過

4 全体で共有する

5分



全体に発表してもいいものがあれば、お願いします。

●数人から発表してもらう。

25分

4 このアイデンティティは言いやすい?

50分経過

様々なアイデンティティの要素が、社会の中でどう扱われているか整理する。



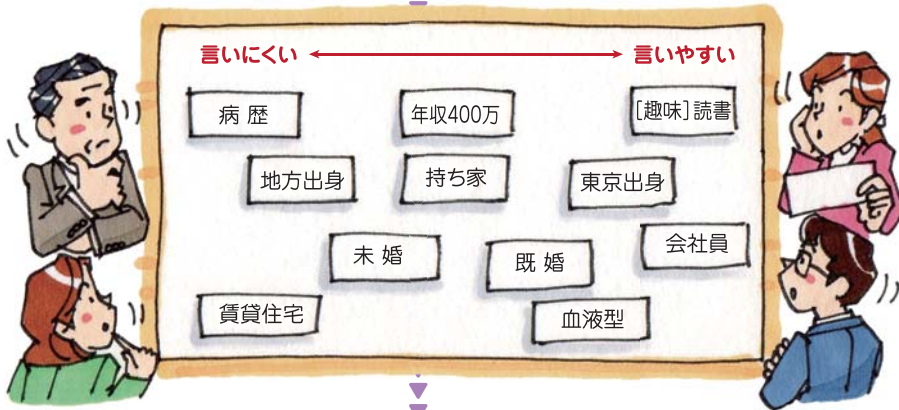
先ほどあげていただいたカテゴリーは、アイデンティティともつながっています。アイデンティティというのは、うまく訳しきれない言葉ですが、その人をその人らしく形作っている要素、とでも言ったらよいでしょうか。その人を構成しているとても大切なものです。けれど、現実の社会の中では、その項目によって表明しやすかったりしにくかったりします。

1 アイデンティティ・カードを並べる

10分



具体的に考えてみましょう。お配りするの、さまざまなアイデンティティの項目が書かれたカードです。グループで話し合って、右側に表明しやすいもの、左側に表明しにくいものを並べてみてください。もちろん、人によって考え方は様々なので、位置をはっきり決めるのは難しいと思いますが、どのように考えるのかを出し合ってみましょう。



●もぞう紙とアイデンティティ・カードをグループに1セットずつ配布する。

ポイント

左右にきっちり並べなくても、真ん中あたりもあってよい。ただし、なんでも真ん中にならないように注意する。

60分経過

2 「表明のしやすさ/しにくさ」に影響しているものについて考える

15分



「表明のしやすさ/しにくさ」で並べてみてもらいましたが、「表明できる方がよい」「表明しなくてはならない」ではない、ということ、確認しておきたいと思います。そのうえで、皆さんに考えていただきたいのは、「表明のしやすさ/しにくさ」に影響しているものは何か、ということです。

影響しているものとしてあげられるのはどんなことでしょうか。また、自分のアイデンティティなのに、自分の中で大事に思えない、否定的に感じてしまうこともあります。その人を形作る大切なものはずなのに、なぜそんなことが起こるのでしょうか。グループで話し合ってみてください。

●話し合いの時間をとる。

話し合っていたいたことを、発表していただけますか。

●グループから発表してもらおう。



75分経過

5 みんなのアイデンティティが 大切にされるために

15分

1 アイデンティティ・カードを並べる

8分



アイデンティティは個人のもですが、そのあり方・受け止め方は、周りの人との関わりや社会に強く影響されています。自分のアイデンティティを肯定的に思えないというのは、とてもしんどいことです。全ての人のアイデンティティが大切にされ、傷つけられないために、どのような関係性・コミュニティの在り方が望ましいでしょうか。現状でいちばん問題だと思うことを3つあげて、それに対する改善のアイデアを考えてください。

- 各グループにA4白紙を3枚配布し、記入してもらう。

ポイント

- 書き方はA4の紙1枚につき、1つの問題と改善のアイデアを書く。
- 後で前に貼るので、マーカーを使い大きな字で書いてもらう。

83分経過

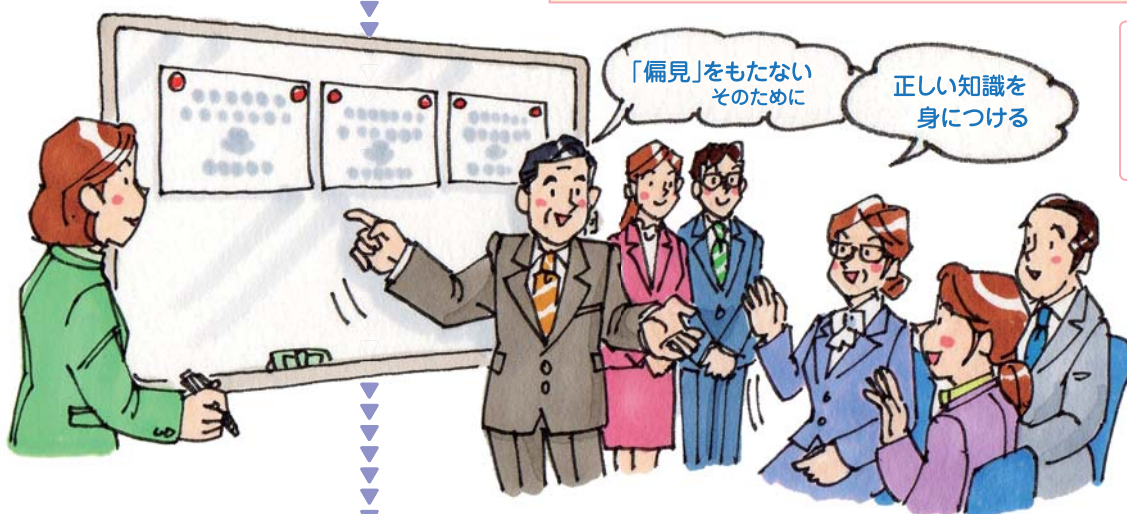
2 全体で共有する

7分



では、グループで考えたものを前に貼り出しましょう。

- グループで記入した紙をホワイトボードに貼り出し、読み上げる。



ポイント

- 適宜、グループに質問して補足説明をしてもらう。



ここにあげられたものを、これからの日常の中で、ぜひ実践してってください。
今日は参加していただき、ありがとうございました。

歌詞カード

ぼくのおとうさん

(作詞:佐藤雅彦・内藤真澄 作曲・歌:栗原正巳)

おとうさん おとうさん ぼくのおとうさん

かいしゃへいくと かいしゃいん

しごとをするとき かちょうさん

しょくどうはいると おきゃくさん

おとうさん おとうさん ぼくのおとうさん

はいしゃにいくと かんじゃさん

あるいていると つうこうにん

おとうさん おとうさん ぼくのおとうさん

がっこういけば せいとさん

でんしゃにのると つうきんきやく

おとうさん おとうさん うちにかえると

ぼくのおとうさん

※複製は禁じられていますので、冊子から切り取って使ってください。
また、無断で転載することは禁じられています。
JASRAC 出 1301851-301

会社員(正社員) 〈就労形態〉	派遣社員 〈就労形態〉	フリーター 〈就労形態〉	職業・ 経済状況等
無職 〈職業〉	公務員 〈職業〉	自営業 〈職業〉	
ホワイトカラー※ 〈事務系〉 〈職種〉	ブルーカラー※ 〈肉体労働〉 〈職種〉	ピンクカラー※ 〈看護師、保育士などケア職〉 〈職種〉	
年収100万円 〈収入〉	年収400万円 〈給与所得者の平均年収程度〉 〈収入〉	年収1,000万円以上 〈収入〉	
持家 〈住まい〉	賃貸住宅 〈住まい〉	市営住宅 〈住まい〉	家族関係
4年制大学卒 〈学歴〉	高校卒業 〈学歴〉	高校中退 〈学歴〉	
未婚 〈婚姻〉	既婚 〈婚姻〉	離婚経験あり 〈婚姻〉	
ひとりっ子 〈きょうだい〉	長男・長女 〈きょうだい〉	末っ子 〈きょうだい〉	
ひとり親育ち 〈成育環境〉	両親と子どもの 世帯育ち 〈成育環境〉	3世代 大家族育ち 〈成育環境〉	国籍等
子どもあり 〈子ども〉	子どもなし 〈子ども〉		
日本国籍 〈国籍〉	アメリカ国籍 〈国籍〉	中国国籍 〈国籍〉	
大阪出身 〈出身地〉	東京出身 〈出身地〉	地方出身 〈出身地〉	信条等
読書 〈趣味〉	フィギュア集め 〈趣味〉		
異性愛 〈性志向〉	同性愛 〈性志向〉		
仏教徒 〈信仰〉	キリスト教徒 〈信仰〉	イスラム教徒 〈信仰〉	
身体障がい 〈障がい〉	精神障がい 〈障がい〉	発達障がい 〈障がい〉	身体等
糖尿病 〈持病〉	HIVキャリア 〈持病〉	持病なし 〈持病〉	
食べ物に 好き嫌いなし 〈食習慣〉	偏食 〈食習慣〉	ベジタリアン 〈食習慣〉	
A型 〈血液型〉	B型 〈血液型〉	RHマイナス 〈血液型〉	

アイデンティティ・カード

時間や参加者の状況に応じて項目を選び、適宜拡大して点線を切り取って配布してください
(右端の列は配布不要です)

左記のカードの中には、アイデンティティとはいえないと思われるものがあるかもしれませんが、広く自分自身にかかわる要素という意味で多様なものをいれています。たとえば、血液型は科学的根拠がないにもかかわらず、占いや性格判断の分類として使われた結果、かたよったイメージを持つ人も多いですが、そのことが「言いやすさ」にどう影響されているかを考えるために入れた項目です。この活動を行う際には、それぞれのカードが「いい/わるい」ではなく、なぜ言いやすかったり、言いにくかったりするのかが、言いやすさに影響しているものはなにか、ということについて深める話し合いをしてください。

太字はアクティビティのねらいについて考えるために必ず配布してほしい項目です。横の行のまとめりごとに、同じカテゴリーの項目をまとめているので、選ぶ際には行単位で選ぶようにすると、カテゴリー内の違いについて話し合うことができます。白紙のカードを使って、項目を追加していただいてもよいです。

※ブルーカラーとは、青えりの作業衣を着ることからいう肉体労働者、ホワイトカラーは肉体労働に対し、白えりの服を着て事務所で働く人という言葉。ピンクカラーとは、看護師・保育士など女性が従事する割合が多い職種で、ブルーカラー、ホワイトカラーから派生してできた言葉といわれている。

参考文献:大阪府府民文化部人権室 人権学習シリーズvol.8「わたしを生きる アイデンティティと尊厳」から引用

配布用にコピーする際は、点線に沿って折り、答えを隠してコピーしてください。

色んな カタチで つながる 社会



性別、年齢、国籍、考え方など、

人は様々な形「個性」を持っています。

私たちの社会は自分とは違う形を持つたくさんの人と

つながることによって成り立っています。

それにもかかわらず、私たちは他者の違う形に戸惑い、

異質なものとして恐れたり、

つながりを限定したりすることがあります。

① 性別によって を決めつけてはいませんか？

② 年齢によって を狭めてはいませんか？

③ 国籍によって に差をつけてはいませんか？

④ 立場によって を変えてはいませんか？

人は一人で生きているわけではありません。

それぞれの個性を認め合い、支え合っていくことで

豊かな社会を形作る事ができるのです。

ニュースにおける人権

便りがいいのはよい便り～本当にそうなの？

ねらい

- メディアや日常生活における人権に対する意識を高めること
- メディアが人権問題をどのように扱っているか調べる

概要 人権の享受、侵害、保護に関する新聞記事を調べます。

テーマ 人権全般、メディアとインターネット

複雑さ レベル2*

年齢層 10～13歳

グループサイズ 10～30人

所要時間 45分

準備 各種新聞を集めます。

準備物

- 各種新聞
- ポスター用紙
- セロテープか糊とハサミ
- マーカー
- 「世界人権宣言」のコピー

*レベル2とは必要とされる子どもの知識や能力の程度、学習の目的、主題の緻密さ、ルールの複雑さ、タイムフレーム、起こりうるリスク、グループ・ダイナミクス(集団学力)などの要素に基づき、1から3のランクで複雑さのレベルを示したものです。(3が最も複雑)

指示

① このアクティビティは
ニュースにおける人権に関わる
ものだと説明します。
これまでに行った人権に関するアク
ティビティやディスカッションについ
て、子どもたちに思い起こしてもらい、
再度「世界人権宣言」を取り上げます。

② 子どもたちを
小グループに分けます。
各グループに新聞紙、ハサミ、セロテ
ープか糊、マーカーとサンプル(右記参
照)のように用意したポスター用紙1
枚を配ります。

享受されている権利		拒否されている権利		保護されている権利	
分析		分析		分析	
権利	「世界人権宣言」の条項	権利	「世界人権宣言」の条項	権利	「世界人権宣言」の条項

③ アクティビティを説明します。
ニュース記事以外の記事がどのように人権に関連しているか、という事例を紹介します。

- 各グループは新聞から切り抜いた記事を使ってポスターをつくります。次の三つのカテゴリーに当てはまる記事を探すように指示します。
 - 行使されたり、享受されている権利
 - 拒否されたり、侵害されている権利
 - 保護されている権利
- ニュース記事を探すだけでなく、スポーツ、告知、広告などにも注意するよう言います。
- 人権に関する記事を見つけたら、切り抜いて適切なカテゴリーに貼り付けます。
- 各カテゴリーに当てはまる新聞記事を見つけ終えたら、どれか一つ選んで、次のような質問に答えながら、分析させます。

- ④ その記事には具体的にどんな権利が関わっていましたか？記事の横に列記してください。
- それぞれの権利を取り上げている「世界人権宣言」の条項を見つけ、リストに何条であるかを書き出します。
 - ポスターの下のスペースに答えを書いて、分析した記事と矢印で結ばせます。
- ⑤ 各グループの代表にポスターの発表をしてもらいます。

報告と評価

- ① 各グループのポスターからいくつかの記事を選んで、グループに「世界人権宣言」の点から分析した結果を説明してもらいます。
- 記事や特集を人権に結びつけるのは難しかったですか？
 - 多くの記事に人権が関係していましたか？
 - 「世界人権宣言」のどの条項が関わっていましたか？
 - 子どもとして、一番気になる人権はどれですか？
- ② 次のような質問をしてアクティビティについて話し合います。
- どのようなカテゴリーに属する権利の記事を見つけやすかったですか？見つけにくかったのはどのカテゴリーの権利ですか？それはなぜでしょう？
 - 他の条項よりも多く登場した「世界人権宣言」の条項がありましたか？まったく登場しなかった条項がありますか？どうしてでしょう？
 - 明白に人権について触れている記事はいくつありましたか？人権問題に関連しながら、それに関する用語を使っていない記事はいくつありましたか？人権のことが触れていないのはなぜだと思いますか？
 - 子どもの権利が特に取り上げられていたでしょうか？
 - こうしたニュース記事からみて、今日の世界における人権状況はどうなっていると思いますか？ヨーロッパではどうですか？あなたの地域ではどうですか？
 - こうした記事の中では、人権を保護するためにどんなことが行われていますか？そうした行動を起こしているのはどのような人でしょう？

行動に向けてのアイデア

- 他の新聞記事の切抜きを集めるよう促します。新しい項目がいくつか加えられたら、ポスターを見直します。
- グループに特に関連のある人権問題(例えば、貧困に関連していると思われる財産権、教育を受ける権利、特に質の高い教育など)を取り上げ、グループが選んだレベル(地域社会レベル、国内レベル、国際的レベル)での意識向上キャンペーンを行います。

ファシリテーターへの助言

- 地元紙や広告紙などを含むさまざまな新聞やニュース雑誌から記事を選びます。最新のものである必要はありません。
- 子どもたちにニュース記事とは別の部分について考えさせます。例えば、広告:財産権、結婚や葬式の告知:文化、結婚、思考、良心、宗教に関する権利、スポーツ:レジャーの権利、個人的広告や集会の通知:結社の権利など。
- グループが作業内容を確実に理解しているかどうか確認するために、はじめの部分は注意深く立会います。
- 応用:各グループがクラス全体用のポスターを作るためにさがした記事を持ち寄って、協力しながら各カテゴリーについてのポスターを3枚作成します。
- 低学年の場合:
 - 享受されている権利と拒否されている権利という二つのカテゴリーのみ扱います。
 - 日常生活における人権に関する子ども自身の体験に注目した質問をします。
- 高学年の場合:
 - さまざまな新聞やメディアでの同じ人権記事の扱い方を比較させます。記事の扱いにおける重さにはどんな違いがみられるのでしょうか？記事の形態における重さについてはどうでしょう？同一のできごとについてさまざまな見方があるのでしょうか？特に人権を取り上げているものがありましたか？
 - 子どもたちにテレビのニュース番組を見て、取り上げられていた話題や各人権問題に割かれた時間を書き留めてもらいます。

その「ちがい」は何のため?

ねらい

- 女性のみを対象とした措置について、「必要性」と「差別の実態」の2つの軸で検討し、差別是正のための特別措置と集客サービスとしての措置の違いについて理解する。
- 特別な措置を必要とする差別や格差の実態を知り、積極的差別是正に関する誤解を解く。

キーワード

差別

逆差別

積極的差別是正

特別措置

準備物

- ワークシート①個人作業用(3折)…人数分
- ワークシート②個人作業用(座標軸)…人数分
- ワークシート③(事例カード)…各グループ1セット
- もぞう紙(半裁)…各グループ1枚(横置き)
- マーカー…各グループ1セット
- 解説資料…人数分
- のりあるいはセロハンテープ…各グループ1セット
- タイマー
- ホワイトボードとホワイトボード用マーカー
- もぞう紙を掲示するためのマグネットあるいはセロハンテープ

プログラムの流れ 77分

- 2分 ① ねらいと進め方の説明
- 10分 ② ウォーミングアップ
- 60分 ③ その「ちがい」は何のため?
~女性専用車両で考える差別と平等
- 5分 ④ 新しいアイデアを考えよう!

ねらいの説明

START

① ねらいと進め方の説明

2分



会場設営

最初は机なしの講演会形式。机はあとで使うので会場の横にたたんで置いておく。すぐにペアで対話ができるよう、座席は2の倍数で作っておく。イスは縦6列くらいが適当。参加者数に合わせて、一列の座席数を事前に決めておく。

ポイント

男女比率や年齢など、参加者の構成を把握しておく。
男性が少ない場合は、その少数意見を拾いながら進行する。
男性が多い場合は、女性が本当の気持ちを出せているか様子を見ながら進行する。



まず、今日の活動のねらいを説明します。

今日は女性専用車両をはじめとする女性に対する特別な措置、女性にだけ他と異なる取り扱いをすることについて、ワークショップ形式で、ひとつひとつその是正を検討しながら差別の実態を是正するために「特別措置」を行うことの意義を考えます。

たとえば「通勤・通学時の電車では痴漢被害が多発しているのだから女性専用車両は必要だ」という意見もあれば「女性にだけ特別に車両を優遇しているから逆差別だ」という意見もあります。その是非についてじっくり考えてみたいと思います。

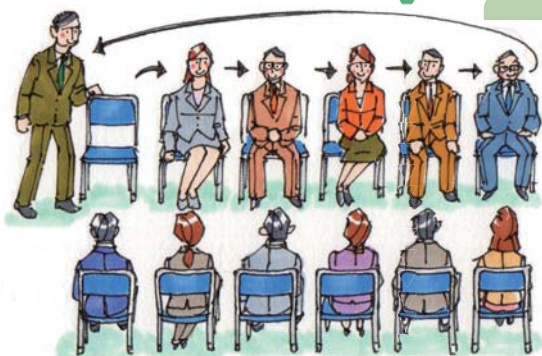


ペア・コミュニケーション

2分経過

2 ウォーミングアップ —ペア・コミュニケーション—

10分



こうした活動をするためには、一人ひとりの体験や経験を聞きあいながら進めることが欠かせません。良質なコミュニケーションの場を作るために、まずは互に関心を寄せあい、聞きあうことから始めたいと思います。

今から2人で対話をするために、向かい合ってペアを作りましょう。では、まず、こちらの方とこちらの方で、向かい合ってペアを作ってください。このように、他の皆さんも向かい合ってペアを作ってください。どうぞ。(モデルを示してから全体に動いてもらう)

対話をする順番、時間、テーマは、こちらで決めます。まず、向かい合って右側の方から、1人30秒ずつお話してもらいます。

最初のテーマは「今日の朝ごはん」です。最初は「こんにちは」と握手をしてから始めてください。



1 今日の朝ごはんは? (30秒×2)

★ペアを交代してもらう。片側の方が1つずつ後ろから前にずれる。

2 ここに来るまでの経路は? (2人で1分)

★を繰り返す。

3 電車に乗っている時、何をして過ごしますか? (2人で2分)



本を読む、音楽を聴く、寝ているなど、人によって過ごし方は様々ですね。

しかし、痴漢被害から身を守るために、また一方では痴漢えん罪を避けるために、不安な気持ちで過ごしている人もいます。

今、話し合ったことを少し心にとめながら、今日のメインに移りましょう。

では、またこちら(前)を向いてください。



3 その「ちがい」は何のため？ —女性専用車両で考える差別と平等—

1 ワークシート①を配布する。



ワークシート①に、事例(A~F)が6個記載されています。

これらの事例は全て、現在、日本で実際に行われている、女性に対して特別に行われている措置です。



一例をあげると、Fのカードには「F鉄道会社は、長距離特急の指定席に、女性だけが利用できる女性専用席を設置した」と書かれています。これは2007年から特急雷鳥(サンダーバード)で車両に一部に女性専用の座席を設置するという特別な措置が行われていることなどを意味します。

「そのちがいは何のため？」というタイトルはそれぞれのカードについて、なぜ、このような特別な措置が行われているのかを考えてみようとするものです。

まず、事例A~Fを読み、一人ひとりで考えてみてください。



「あなたの判断①」について説明します。

「その違い(特別な措置)は必要です。社会にとってあった方がよい」と考えた場合は「必要」に○をつけてください。

「その違い(特別な措置)は不必要です。社会からなくすべきだ」と考えた場合には「不要」に○をつけてください。いずれも当てはまらない場合は「？」に○をつけてください。



ポイント

- 「必要」「不必要」「ある」「ない」の2つの軸について、ワークシートの説明文を用いて、丁寧に説明する。
- 理解しにくい場合は、具体例を用いて説明することもできます。

(例1)

映画館のレディースデイは「不要」である。

なぜなら、女性だからといって映画代も払えないような時代ではないから、「差別の実態はない」のである。

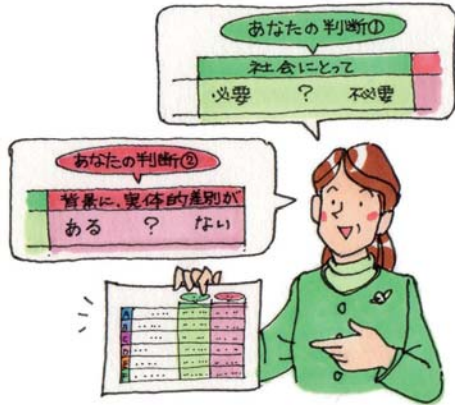
(例2)

女性専用車両は「必要」である。

なぜなら通勤・通学時間帯の電車では痴漢が多発しているからである。

痴漢とは相手の意に反して性的接触を行う犯罪行為であり、加害者の多くは男性であり、一方、被害者の多くは女性である。

つまり、痴漢行為の背景には、男性が女性を人格を持たない性的存在として扱う傾向を持つという「差別の実態がある」と言える。



「あなたの判断②」について説明します。

「その違い(特別な措置)を考えた背景には何らかの実態的差別がある。差別や格差の是正を目的としているのだろう」と考えた場合は、「ある」に○をつけてください。

「その違い(特別な措置)を考えた背景には、実態的な差別は関係しない。他に何らかの目的があるのだろう」と考えた場合には、「ない」に○をつけてください。

いずれも当てはまらない場合は、「?」に○をつけてください。

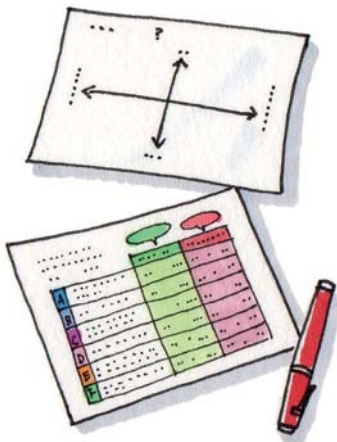
17分経過

2 ワークシート②を配布する。

5分



グループ討議をする前に、自分の考えを確かめる必要があります。ワークシート②も個人作業用で、一人ひとりに配布されています。A~Fの6項目について、それぞれ、ワークシートの座標軸のどのあたりに位置するか考えて、記号を書いてください。



22分経過

3 グループ討議

20分



ペアを組み合わせさせて4人グループを作ってください。

皆さんに「司会者」「報告者」「記録者」「盛り上げ役」のいずれかの役割になっていただきます。報告者は後でグループの話し合いのまとめを発表していただきます。記録者のもぞう紙(座標軸)を作成してください。盛り上げ役は、あるときは聞き役になったり、あるときは反対意見を述べてみたりして、グループの話し合いが活性化するようにお願いします。



- もぞう紙をグループに1枚配る。



役割が決まったら、皆さんで協力して準備をしましょう。

事例カードを6枚に切り分けてください。

次にもぞう紙を4つに折り、ワークシート②(座標軸)と同じように、十文字に線を引いてください。



では、司会者を中心に、6枚の事例カードをもぞう紙(座標軸)のどのあたりに置いたらよいか、グループで話し合ってください。



6枚の事例カード全てについて、全員の合意形成ができれば、貼り付けてください。

貼り付けられた6枚の事例カードをグループ分けして、水性マーカーで囲んでください。また、グループの特徴を、タイトルにして記載してください。

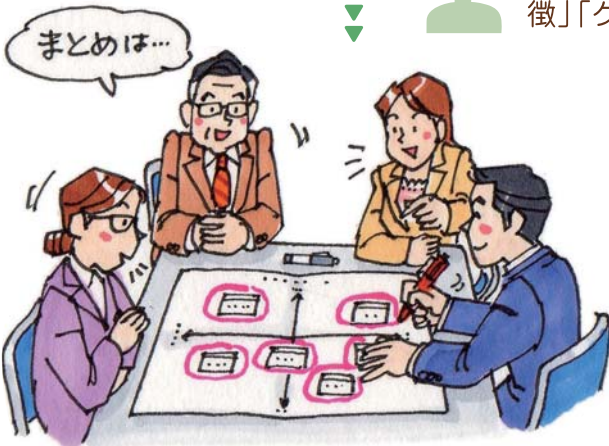
42分経過

4 グループごとの発表

15分



「事例カードの座標軸上の位置」「事例カードのグループごとの特徴」「グループ内で話し合ったことの中で特に紹介したいもの」について呈度に合わせて報告してください。



ポイント・予想される意見

- 女性だけが優遇されているのは逆差別ではないか。
- 特別な措置をするから、新たな差別を作ることになる。
- 痴漢の被害者がいるのだから、女性専用車両は必要
- 男性の痴漢えん罪被害を防ぐためにも、女性専用車両は必要

57分経過

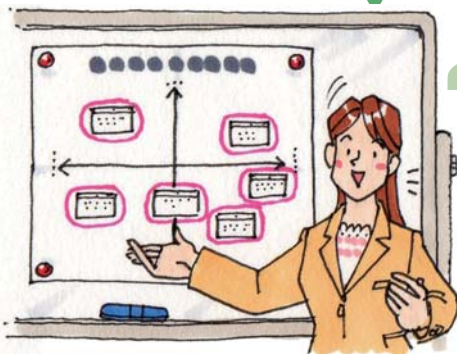
5 事例カードについてのコメント

15分



各グループのもぞう紙(座標軸)には、それぞれ特徴がありましたね。自分で考えていたものと同じ考え方のものもあれば、異なる場合もあったと思います。

大切にしたいのはグループで意見交換をする中で、他の人の体験や考え方を知り、吟味し、自分の考えが確かなものに高められたり、自分の考えが変容していくプロセスを体験することだと思います。





●解説資料を配布する。



今から、解説資料を配布し、それに基づいて説明します。
資料の1番が、今日、私が考えた座標軸です。BとE、CとD、AとFの3グループに分類しそれぞれに位置を決めました。資料を見ながら、聴いてください。

ポイント

- 教材作成の視点として、上記の座標軸を作成しました。ファシリテーターの考え方によって、座標軸のA～Fのカードの位置は修正して活用してください。
- 第1グループ、第2グループ、第3グループのそれぞれの特徴を整理し、その特別な措置が生じた背景を考えてください。



BとEは、経営者が利益追求のために、集客サービスとして進めている措置です。

資料の2番をご覧ください。

「レディースデイは逆差別だ」という意見を聞くことがありますが、この映画館の場合は、実に様々な集客サービスを行っており、レディースデイはその一つでしかないことが分かります。

経営戦略上の女性対象サービスは、その企業が女性客の更なる拡大を目的として行っているのですから、社会的正義に照らして「あるべき・なくすべき」を論じる問題ではないと思います。

例えば「女性にはランチにデザートをサービス!」を行っているイタリア料理店と「12歳以下の子どもさんにはクリスマス・プレゼントをサービス!」を行っているハンバーガー屋さんがあったとして、前者が許せなくて、後者が許せるという問題ではないといえます。





C、Dは ↓ 社会的自立が
目的



CとDは、就職率、平均収入、職業上の地位など、著しく低位にある女性の実態を背景に、格差是正を図るためにとられた措置です。

D県の事業の場合、ドメスティック・バイオレンス(DV)の当事者や生活保護を受けているシングルマザーなど、社会的、経済的に困難な状況にある女性たちの自信回復や、就労などによる社会的自立を目的にしています。

資料の3番をご覧ください。

一般家庭に比べて母子家庭の平均所得は半分以下です。こうした著しい格差を解消するために行う特別な措置のことを、積極的差別是正措置(アファーマティブ・アクションまたはポジティブ・アクション)といいます。

資料の7番にあるように、国際的な人権基準により、こうした特別措置は差別とはみなされません。



AとFについては、まず、被害の実態について確認するところから始めましょう。

大阪府立大学の学生対象の調査では、女子学生のうち4人に1人が痴漢被害を経験していることが分かっています。

更に、資料5によれば、大阪府立大学女子学生の9割弱が、痴漢被害の不安解消のために何らかの対策をとっていることが分かります。また、内閣府の調査によれば、5割の女性が痴漢被害にあっており、痴漢行為の7割は電車内で発生していることがわかっています。このように、今、女性たちは本来、安心・安全でなければならない公共交通機関において危険な状態・不安な気持ちに置かれているのです。



また、コラムは、地下鉄御堂筋線で起きた事件に関する文章です。痴漢行為を注意した女性が、逆に暴行を受けるという痛ましく、許しがたい事件ですが、大阪ではこの事件をきっかけに、女性専用車両の導入が進みました。また、資料7番の条文に当てはめて考えると「女性専用車両は、女性に対する性暴力である痴漢行為の多発という事態を解決するための暫定的な特別措置であり、差別とみなしてはならない。女性専用車両は、痴漢行為の撲滅という目標が達成されたときに廃止されるものとする。」と表現するのが妥当だと考えられます。Fの事例については、資料6番をご覧ください。

よって女性専用車両導入は、女性が安心して行動するために必要な措置といえます。



さて、皆さんの疑問に答えることができたでしょうか。

性犯罪被害を
なくすために

72分経過

4 新しいアイデアを考えよう!

5分



今,説明したように女性専用車両は暫定的な措置であり,最善の方策ではありません。本当の目的は,誰もが安心・安全に公共交通機関を利用して行動できることであり,女性専用車両はその方策の一つなのです。

さて,今日は最後に,性犯罪被害をなくすためにできること,更に付け加えるべき他の案,より良い代替案を各グループで考えていただきます。

77分経過

1 グループごとの発表

5分



ありがとうございました。

ユニークな案も実現可能な案も出てきたようですね。

こうして性犯罪被害をなくすために多くの人と一緒に話し合い,知恵を出し合うことが大切だと思います。

今日は,女性のみを対象とした措置について,6つの事例の比較検討を通じて,差別是正のための特別措置と集客サービスとしての措置の違いについて考えてきました。

また,積極的差別是正(特別措置)の本来の趣旨を知り,それが逆差別ではないことも学ぶことができました。

これからも,その「ちがい」の背景に実態的差別があるかどうかを判断する姿勢を身につけたいものです。



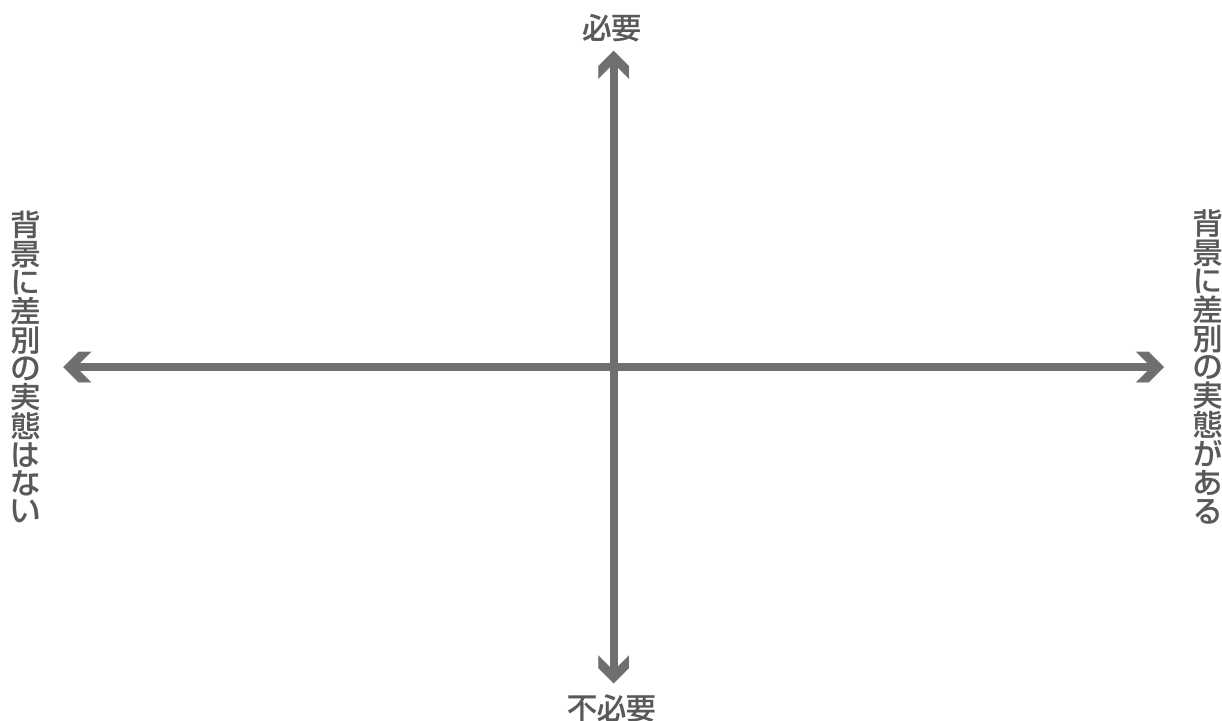
その「ちがい」は何のため? ワークシート① 個人作業用

- 1) まず,事例A~Fを読み,一人ひとりで考えてみてください。
- 2) 「あなたの判断①」については,下記のとおり○を付けてください。
 - ・「その違い(特別な措置)は必要です。社会にとってあった方が良い。」と考えた場合は,「必要」に○をつけてください。
 - ・「その違い(特別な措置)は不必要です。社会から無くすべきだ。」と考えた場合は,「不要」に○をつけてください。
 - ・いずれも当てはまらない場合は,「?」に○をつけてください。
- 3) 「あなたの判断②」については,下記のとおり○を付けてください。
 - ・「その違い(特別な措置)を考えた背景には,何らかの実態的差別がある。差別や格差の是正を目的としているのだろう。」と考えた場合は,「ある」に○をつけてください。
 - ・「その違い(特別な措置)を考えた背景には,実態的差別は関係しない。他に何らかの目的があるのだろう。」と考えた場合には,「ない」に○をつけてください。
 - ・いずれも当てはまらない場合は,「?」に○をつけてください。

		あなたの判断①	あなたの判断②
		社会にとって	背景に、実態的差別が
A	A鉄道会社は,通勤,通学時,原則として女性だけが乗車できる女性専用車両を導入している。	必要 ? 不必要	ある ? ない
B	居酒屋Bでは,飲み放題コースで,男性に比べて女性の方が安い料金設定になっている。	必要 ? 不必要	ある ? ない
C	C社は,女性社員が2割。今年から女性活用推進室を設置し,5割をめざして,女性を積極採用している。	必要 ? 不必要	ある ? ない
D	D県は,経済的に困難な状況にある女性を支援するために,ITスキル習得セミナーを無料開催する。	必要 ? 不必要	ある ? ない
E	E映画館では,毎週水曜日にレディースデイがもうけられ,女性は1000円で映画が観られる。	必要 ? 不必要	ある ? ない
F	F社は,長距離特急の指定席の車両の一部に女性だけが利用できる女性専用席を設置した。	必要 ? 不必要	ある ? ない

その「ちがい」は何のため? ワークシート② 座標軸

A～Fの6項目について,下記の座標軸のどのあたりに位置するか考えて,記号を書いてください。



その「ちがい」は何のため? ワークシート③ 事例カード

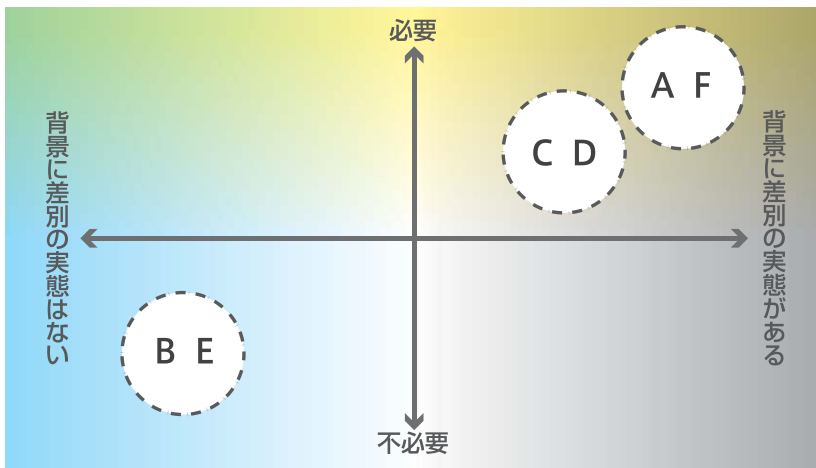
切り取って使います。

A	B	C
<p>A鉄道会社は,通勤,通学時,原則として女性だけが乗車できる女性専用車両を導入している。</p>	<p>居酒屋Bでは,飲み放題コースで,男性に比べて女性の方が安い料金設定になっている。</p>	<p>C社は,女性社員が2割。今年から女性活用推進室を設置し,5割をめざして,女性を積極採用している。</p>
D	E	F
<p>D県は,経済的に困難な状況にある女性を支援するために,ITスキル習得セミナーを無料開催する。</p>	<p>E映画館では,毎週水曜日にレディースデイがもうけられ,女性は1000円で映画が観られる。</p>	<p>F社は,長距離特急の指定席の車両の一部に女性だけが利用できる女性専用席を設置した。</p>



解説資料

1 教材作成に当たっての視点



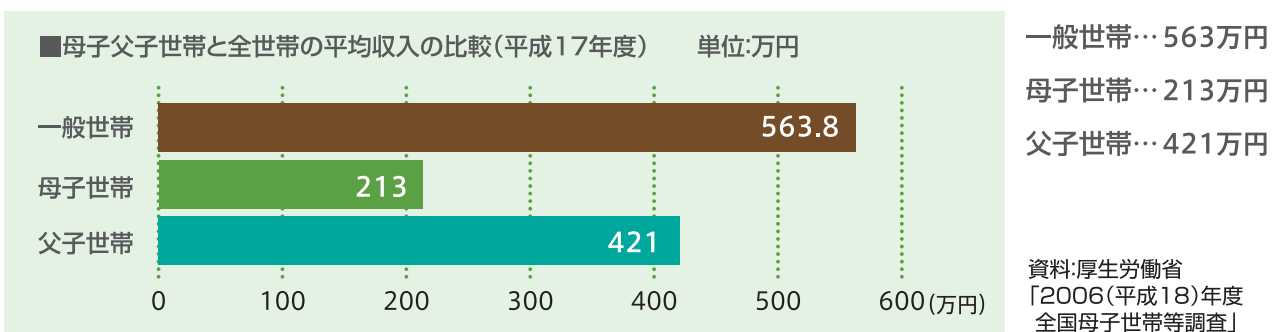
- 第1グループ…BとE
企業収益のための
集客サービスグループ
- 第2グループ…CとD
格差是正のための
特別措置グループ
- 第3グループ…AとF
痴漢等の性犯罪防止グループ

ポイント
 ※教材作成の視点として、上記の座標軸を作成しました。
 ファシリテーターの考え方によって、座標軸のA～Fのカードの位置は修正して活用してください。
 第1グループ、第2グループ、第3グループのそれぞれの特徴を整理し、その特別な措置が生じた背景を考えてください。

2 映画館の経営戦略 —集客を目的とした様々なサービスとレディース・デー—

ある映画館の集客サービス	<ul style="list-style-type: none"> ●毎月1日(ファーストデイ)…………… 1,000円 ●毎月第3火曜日(○○○シネマの日)…………… 1,000円 ●毎週水曜日(レディース・デー)…………… 1,000円 ●毎週金曜日(メンズ・デー)…………… 1,000円 ●いつでも夫婦で50歳以上なら…………… 2,000円 ●高校生友情プライス3人…………… 1,000円 ●大学生友情プライス3人…………… 1,000円
--------------	---

3 「経済的に困難な状況にある女性」とは —母子世帯の収入の実態—



4 国際的に見ても低い水準にある日本における女性の社会的地位

「男女共同参画白書」
2009(平成21)年版

2008(平成20)年に国連開発計画(UNDP)が発表した「人間開発報告書」によると、日本は人間開発指数(HDI)が測定可能な179か国中、8位であるのに対し、ジェンダー・エンパワーメント指数(GEM)は測定可能な108か国中58位となっている。また、世界経済フォーラムが2008(平成20)年に発表したジェンダー・ギャップ指数(GGI)は測定可能な130か国中98位となっている。

1) HDI 人間開発指数(Human Development Index)

国連開発計画(UNDP)による指標で、「長寿を全うできる健康的な生活」、「教育」及び「人間らしい生活水準」という人間開発の3つの側面を簡略化したもの。具体的には、平均寿命、教育水準(成人識字率と就学率)、調整済みの一人当たり国民所得を用いて算出している。

2) GEM ジェンダー・エンパワーメント指数(Gender Empowerment Measure)

国連開発計画(UNDP)による指標で、女性が政治及び経済活動に参加し、意思決定に参加できるかどうかを測るもの。HDIが人間開発の達成度に焦点を当てているのに対して、GEMは、能力を活用する機会に焦点を当てている。具体的には、国会議員に占める女性の割合、専門職・技術職に占める女性割合、管理職に占める女性割合、男女の推定所得を用いて算出している。

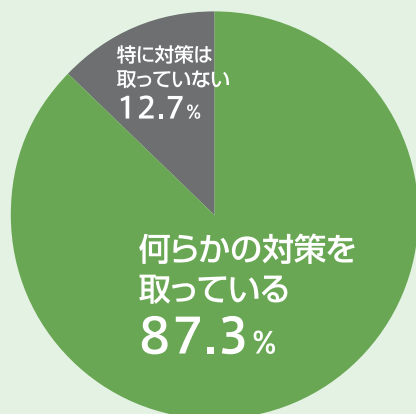
3) GGI ジェンダー・ギャップ指数(Gender Gap Index)

世界経済フォーラムが、各国内の男女間の格差を数値化しランク付けしたもので、経済分野、教育分野、政治分野及び保健分野のデータから算出され、0が完全不平等、1が完全平等を意味している。

GEMが、国の開発レベルの影響を受け、必ずしも男女間格差を示せないことに比べ、性別による格差を明らかにできる。

5 大阪府立大学 学生対象の調査より —チカン被害の不安解消に、9割の女子学生は対策—

■チカン被害の不安を解消するために
対策を取っていますか



(下記 複数回答あり)

- 女性専用車を利用する…………… 25.3%
- 不審な人がいないか目を配る…………… 22.9%
- かばんを胸の前で持ったり、腕を組む…………… 15.7%
- 男性の近くに寄らない…………… 14.5%
- 服装に気をつける…………… 7.2%
- 誰かと一緒に通学する…………… 6.6%
- 急行から普通にするなど、電車の種類を変更する… 4.8%
- ドア付近に立たないなど危険な場所を避ける…… 4.8%

出典「女性専用車両の学際的研究—性暴力としての痴漢犯罪とアクセス権の保障」
(大阪府立大学)

6 サンダーバード事件とは

2008(平成20)年1月17日 大津地方裁判所判決

JR西日本の特急車内で女性に乱暴したなどとして、強かんなどの罪に問われた被告人に対し、懲役18年の刑が言い渡された。

判決によると、被告は2006(平成18)年8月3日、JR北陸本線の特急「サンダーバード」の車内で20代の女性の隣に座り「大声を出すな。殺すぞ。」と脅して胸などを触った後、男子トイレに連れ込み乱暴。さらに同年12月21日夜、JR湖西線の普通電車内や大津市内の駅のトイレなどでそれぞれ別の20代の女性に乱暴した。

裁判長は「卑劣極まりない犯行で、性犯罪への常習性もうかがえる」として、懲役18年(求刑・懲役25年)を言い渡した。

7 男女平等促進と積極的差別是正措置(ポジティブ・アクション)

女子差別撤廃条約(女子に対するあらゆる形態の差別の撤廃に関する条約)(1979(昭和54)年国連採択,1985(昭和60)年日本締結)

第4条 1.締約国が男女の事実上の平等を促進することを目的とする暫定的な特別措置をとることは、この条約に定義する差別と解してはならない。ただし、その結果としていかなる意味においても不平等な又は別個の基準を維持し続けることとなってはならず、これらの措置は、機会及び待遇の平等の目的が達成された時に廃止されなければならない。

2.締約国が母性を保護することを目的とする特別措置(この条約に規定する措置を含む。)をとることは、差別と解してはならない。

男女共同参画社会基本法(1999(平成11)年公布,2001(平成13)年施行)

第8条 (国の責務)

国は、第三条から前条までに定める男女共同参画社会の形成についての基本理念(以下「基本理念」という。)にのっとり、男女共同参画社会の形成の促進に関する施策(積極的改善措置を含む。以下同じ。)を総合的に策定し、及び実施する責任を有する。

コラム 地下鉄御堂筋事件

性暴力を許さない女の会

事件の概要

1988年11月、夜の大阪市営地下鉄御堂筋線の電車内で、二人組の痴漢に対し、勇気を出して注意した女性が「逆恨み」に遭い、その犯人たちに脅されて引き回された末、マンションの建設現場で強かんされるといふ「地下鉄御堂筋事件」が起こりました。女性は警察での事情聴取で「周りの人は怖がってジロジロ見るだけで、声を出しても誰も来てくれなかったら、今度は何をされるかわからないと思った」と助けを求められなかった胸の内を話していました。

裁判では、被告の二人組に対して懲役4年が求刑され、3年6ヵ月の判決が下されました。被害者の恐怖と、事件が残すつめあとを考えると、あまりに短い刑期としか言えませんでした。

事件を契機にした取り組み

「地下鉄御堂筋事件」の記事が世に出てすぐ、事件に対する激しい憤りと、痴漢に注意した女性とその報復として強かんされたことで、これを許したら性暴力に「NO」という声を上げられなくなるという、強い危機感を持った女性達が集まりました。「私たちが何かできないか」と考え「性暴力を許さない女の会」を発足し、事件の翌月に大阪市交通局に要望書を提出しました。

同会が要望した内容は、「1.性暴力をなくすよう、車内広告やアナウンスなどで積極的なPR活動をする、2.性暴力を誘発するようなポスターなどを掲示しない、3.駅員(できれば女性)を増員し、女性の性暴力被害を防ぐと共に、被害があった場合は迅速な対応を行う」の3点でした。

しかしながら、交通局の対応は、この事件を機に発足している「小暴力対策委員会」の見解を示すのみであり、具体的には「1.巡視や見回りの強化、2.女性に気をつけるよう自衛手段をとるよう協力を求める」のみでした。

同会は他の関西私鉄各社にも同じ要望書を送付し、返答を求めたところ「性を前面に出したくないので、迷惑行為はやめましょうというキャンペーンにしている」

などの回答が返ってきました。この回答には、実際に痴漢に苦しめられている女性が多いにも関わらず、それを見て見ぬふりをする鉄道会社の姿勢が表れていました。また、翌年に大阪府警と関西鉄道協会が制作した「痴漢行為にあつたら、勇気を出して大きな声を出しましょう」という趣旨のポスターは、同会の主張である「女に注意を呼びかけるのではなく、男に痴漢をやめろと呼びかけるべき」と全く相いれず、性暴力を行う男性に甘い社会を浮き彫りにしました。

それから活動は継続され、5年後の93年、同会は「セクシャルハラスメントと闘う労働組合ばあぶる」と協力して「STOP痴漢アンケート」を実施し、交通局や私鉄各社への働きかけを行いました。そんな中で、社会的な機運も強まり、大阪の鉄道警察隊がようやく痴漢対策に力を入れるようになってきました。その結果、「痴漢アカン」という、加害者に対するメッセージの含まれた初のポスターや、電車での車内放送なども実現するようになり、2000年以降には女性専用車両の導入が始まりました。

そして今

—暴力と痴漢行為は犯罪です。追放に向けてお客様のご協力をお願いします—

朝の通勤途中、女性専用車両に揺られているとこんなアナウンスが聞こえてきて、社会の移り変わりを実感しました。しかし一方で、「痴漢にあつたら声を出せ」と言われてきた女性たちが声をあげ始めると、今度は「えん罪事件」の増加。彼女たちへの新たな非難が始まりました。また、女性専用車両も「痴漢をなくす為の積極的な取り組み」というより、対処療法でしかありません。

痴漢加害者と被害者、何十年にも渡ってそれを生み出し続ける日本社会。ポスターや女性専用車両を作って胸をなでおろすのではなく、真の解決の為には一体どうすればよいのか、何がベストなのかを考え続けたいといけません。難しい問題ではありますが、それを考え始めることが積極的な解決を模索する第一歩ではないでしょうか。

質問バスケット

これは参加者に障害または障害者について安心して質問する機会を提供することで、障害についての理解を深め広げることのできる簡単なアクティビティです。

これは障害者への偏見や誤解について考えるための参加型研修プログラム、ウインドミルズ[※]から取りました。

ねらい

- 障害または障害者について質問する不安や躊躇を取り除く。
- 直接質問しないために誤解を持ち続け、それが偏見やステレオタイプとなり障害者の雇用や昇進を妨げていることに気づく。
- 参加者の障害に関する理解を広げ、どのようにしたら障害のある人の就労や教育の機会を広げることができるかを考える。

時間 ●45分 人数 ●10~30人

準備物

- A4四つ折り大の紙またはカードを1枚ずつ参加者全員に渡す
- その紙を集めるバスケットまたは箱を1つ
- それぞれの地域にある障害に関する団体、グループの社会資源リスト

準備

- ファシリテーターは、さまざまな障害について、障害者の視点からの広い知識と理解をもっていなければならない。それは一度に身につけ得ることではないので、常日頃から障害者の人々とのつながりや障害者団体との協力関係を持っている必要がある。



※ウインドミルズ：障害者への偏見をなくす

カリフォルニア州知事直轄の障害者の権利向上委員会によって作成されたプログラム。

障害のある人々の雇用、昇進、教育の機会均等を推進するために、障害者への偏見や誤解を無くすことを目的とした15のアクティビティから構成されている。カリフォルニア州ではこのテキストを使ってウインドミルズのトレーニングを開催している。California Governors Committee for People with Disabilities, Sacramento, California

START

①ひとつの大きな円陣に座る。
真ん中にバスケットを置く。

②白紙の紙またはカードを全員に1枚ずつ配る。

配り終わったら、次のように説明する。



「皆さんが知りたいと思っていながら、障害のある人に直接聞くことを躊躇してきた質問をその紙に書いてください。

紙に自分の名前を書く必要はありません。どんな障害についてでも構いません。

2～3分で書いて、真ん中のバスケットに入れてください。」



③バスケットを振ってカードを混ぜる。

④バスケットを回して
1人1枚ずつ質問の書いてある
カードを取る。
その質問を順番に読み上げてもらう。



ポイント

あるいはファシリテーターが質問を読み上げて良い。

⑤ 質問への答えを参加者に聞く。

ポイント

ファシリテーターは答えない。
ファシリテーターは可能な限り参加者から、
その質問に対しての答えを引き出すように話しを進行する。
答えられない質問はバスケットの中に戻す。



1つの答えへの反対の答えも出るかもしれない。
ファシリテーターはそのときは自分の知識、考えを述べる。
いずれにせよ、ここでの答えが正しいとは限らないことを言う。

⑥ すべての質問が終わって。

すべての質問をカバーしたら、次のように言う。



「これらの疑問を口に出さずにそのままにしておくことによって、しばしば誤解やステレオタイプが生まれます。それは障害のある人の採用、昇進などにも影響することでしょう。」

もし多くの質問に誰も応えることができなかった場合は次のように言う。



「これだけの数の疑問が答えられないまましていると、障害のある人への誤解によって、雇用や昇進の機会がとじられてしまうこともあります。」

⑦ 障害のある人の多くは、
正しい理解と
誠実な関係を持ちたいと思う人から
質問されることを
歓迎することを述べる。



30分経過

- ⑧ 障害についての正しい知識を得るために、多くの障害に関する団体やグループがあることを示す。

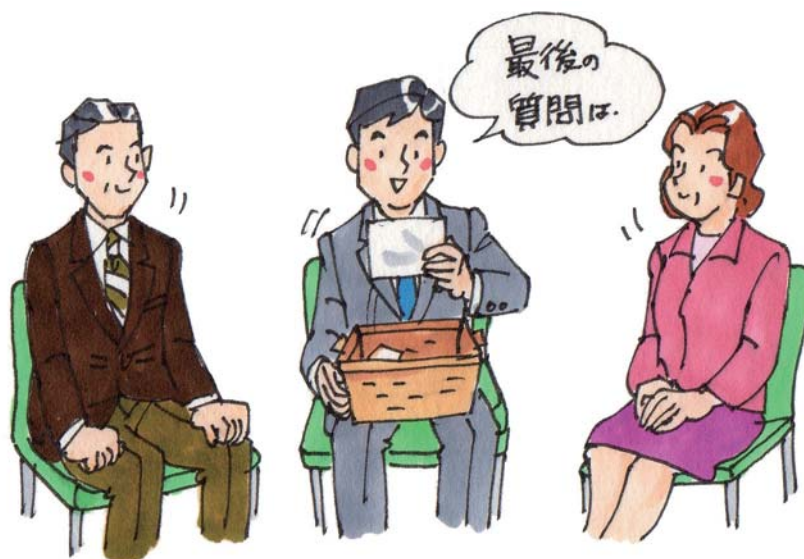
それぞれの地域にある障害に関する社会資源のリストを渡す。

- ⑨ もう一度、質問の1つを読み上げる。

もしこの質問が答えられないまましていると、偏見やステレオタイプを生み出すことになることを、再び指摘する。

質問への答えは身近にあることが多い。

質問することを躊躇しないで、率直に誠実に聞くことが大切であることも語る。



同和問題解決のために

部落差別はもうなくなったのではないかという人もいますが、インターネットの掲示板への書き込みや差別落書き、その他の心理的な差別も含めて、今なお解消されていないのが現状です。差別をなくすために自らできることを考えていきます。

ねらい

● 同和問題に関して、学習者同士が自分の考えや思いを出し合い、同和問題の正しい理解を深め、解決のために行動する意欲を高めます。

対象者

成人一般

中心となる
人権課題・テーマ
同和問題

準備物

- ホワイトボード
- マーカー

プログラムの流れ (90分)

- | | | |
|----------------|---------------------|-----|
| ① アイスブレイキング | フルーツバスケット 三段論法の落とし穴 | 20分 |
| ② 中心となるアクティビティ | みんなに聞いてみよう! | 50分 |
| ③ 振り返り | 振り返ってみよう | 20分 |

- 「振り返りシート」に記入します。
- 発表して気づきを共有します。

アイスブレイキング

START

① アイスブレイキング

20分

参加者は円陣に座り、1人が鬼になります。このとき鬼のイスを円陣から外します。鬼になった人は、学習者の特徴や着ているものなどを言います。例えば、「メガネの人」。鬼が「メガネの人」と言ったら、メガネをかけた人は全員立ち上がり、空いている他のイスに座らなければなりません。このとき鬼も座るので1人が余ることになります。座れなかった人が次の鬼になり、また参加者の特徴を言います。例「スーツの人」。これを繰り返します。

① フルーツバスケット

参加者に関係することや共通する特徴を言ってもらい、座席を移動します。

- ファシリテーターは、参加者があげた言葉をホワイトボードに板書します。

5~10回行います。

例) メガネ スーツ

② 三段論法の落とし穴

ホワイトボードに書き出された言葉を使って、「○○の人は△△である」という短文を作ります。

例) メガネをかけた人は賢いです。
スーツを着た人は真面目です。

ファシリテーターから三段論法の説明を聞き、参加者数人が、手元にある短文を三段論法で発表します。

例) 「メガネをかけた人は賢いです。」
▼
「Aさんはメガネをかけている。」
▼
「だからAさんは賢い。」

ポイント

一般化された三段論法の推論について、参加者になるべくたくさん出してもらい、より効果的に、予断や決めつけの怖さに気付くようにします。

③ 発表をもとに、4~5人のグループで気づきや感じたことを話し合う。

まとめの観点：予断・偏見・決めつけと判断

④ グループで話し合ったことを発表し、参加者全体で共有する。

中心となる
アクティビティ

20分経過

② みんなに聞いてみよう!

50分

ねらい

アンケート調査を通して、同和問題の理解を深めたり再確認したりすると同時に、解決のために自分たちのできることを考えます。



① ワークシートに自分の同和問題に対する考えや思いを記入します。

★プライベートな事柄には十分配慮しましょう。

② 自分が聞いてみたいことを決め、学習者同士で互いに聞き取り(アンケート調査)をします。

条件設定 ●インタビューは簡潔にたずねる。
●5分間で自由に歩き回って聞く。
●なるべく多くの人に聞く。

ポイント

差別的な言動に対しては毅然とした態度で臨みます。

差別的な発言などがみられた場合には、学習者に返して話し合ってもらうのも1つの方法です。

③ 聞き取りを行った項目ごとに、5人程度のグループをつくり、聞き取りを実施して気付いたことや考えたことを話し合います。

④ 話し合いの結果から、「差別をなくすために自分ができること」を考えます。

★「差別をなくすためにできること」は具体的にできることやしなければならないことを出し合います。

⑤ 話し合いの経過も含めて、グループごとに発表します。

振り返り

70分経過

③ 振り返ってみよう

20分

① 「振り返りシート」に記入します。

② 発表して気づきを共有します。

みんなに聞いてみよう! (参加者アンケート) ワークシート

1) 同和問題を初めて知ったのは、いつですか。また、そのとき、どんなことを感じましたか。

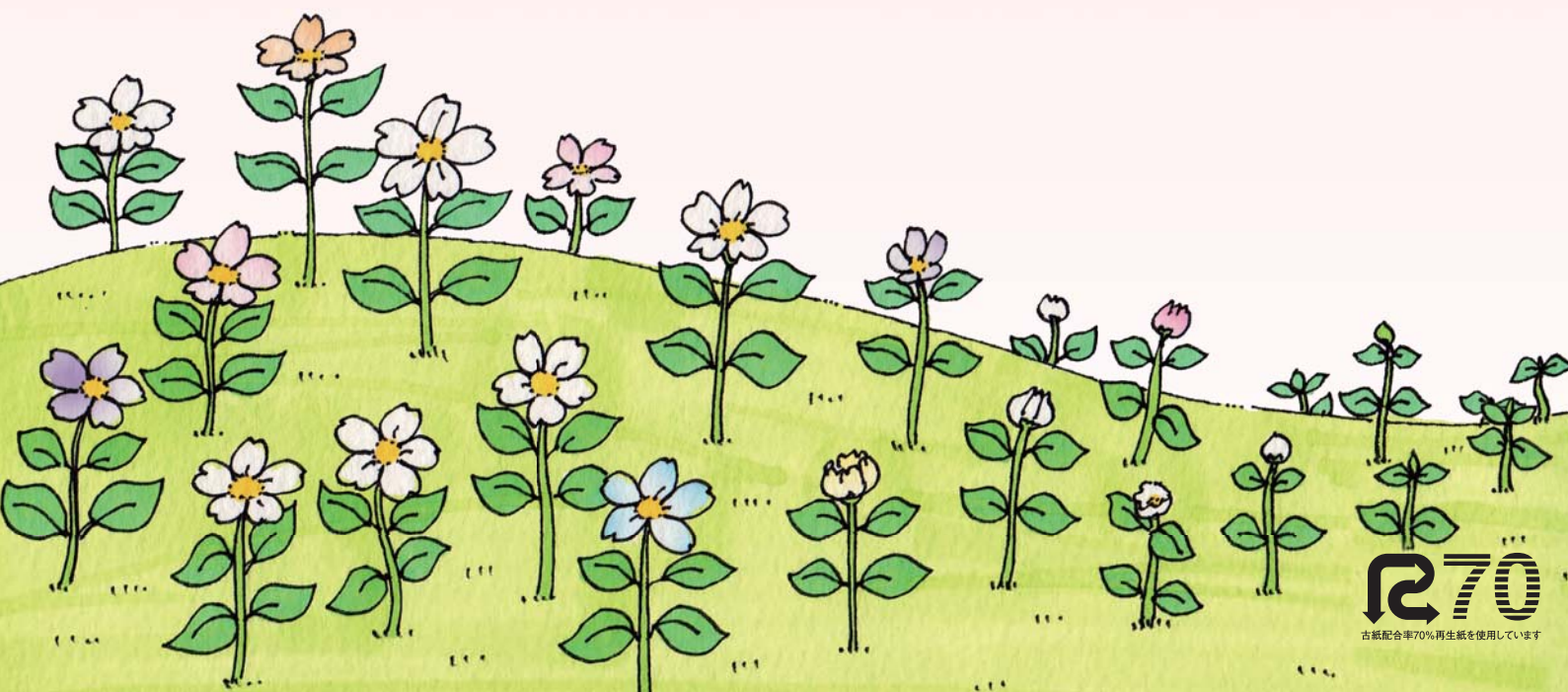
2) 今、同和問題についてどう思っていますか。
もし、初めて知ったときと変わっていたら、どうして変わったのでしょうか。

3) 今も残る部落差別にはどんなことがあると思いますか。

4) 差別解消のために、自らできることを書いてみましょう。

振り返ってみよう

振り返りシート



R70

古紙配合率70%再生紙を使用しています